

宴会の料理文化に 表出された類型性と個別性

Standardization and Specialization on Culinary Culture of Banquets

竹内由紀子

はじめに

- ①宴会の料理文化の地域社会への流入
- ②宴会の料理文化と膳碗類
- ③料理人に期待されたもの
- ④個別性と類型性の演出

【論文要旨】

婚礼や葬儀など人生儀礼の宴会が、標準化され規範化された地域社会のマニュアルに沿って挙行されるのか、当事者の個別的な社会関係や個性に応じてマニュアルを越えて挙行されるのか。この点に注目して、人生演出の機会における類型性と個別性の位相を検討する。

宴会の料理文化は、上層や都市といった地域社会外部に由来する要素から成り立っている。しかし、地域社会が必要とし、徐々に取り込んでいったものである。料理文化の地域社会への浸透過程を検討すると、当初は上層農民によって例外的に導入されたものが、社会内部の常識として固定化されていく経緯がある。民俗調査の聞き取りの段階では、ムラごとに異なる各地域社会に固有なマニュアルに作り上げられていた。そこには、地域独自の取捨選択と変形をみることができる。

本稿は、宴会で使用された膳碗類と、宴会料理の共同調理における料理人の存在にフォーカスすることで、宴会の料理文化に対する地域社会の取捨選択、変形的具体像を追究し、類型化と個別化のモーメントを位置づける。

キーワード：人生儀礼，食文化，地域社会，共有膳碗，料理人